

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00851

研究課題名（和文）尼子氏の興亡と西日本社会の変動に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the relationship between the Amago clan and the transformation of Western Japanese Society in the 16th Century

研究代表者

長谷川 博史（HASEGAWA, Hiroshi）

島根大学・学術研究院教育学系・教授

研究者番号：20263642

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、戦国大名として知られる出雲国尼子氏の興亡を、大きな転換期を迎えた16世紀の日本列島諸地域の動向のなかに位置づけなおし、尼子氏の急激な盛衰の背景や要因、ならびに尼子氏が時代の転換に果たした役割や意味を明らかにすることをめざした。そのため、あらためて尼子氏関係史料を博搜し、未確認であった史料の調査を行い、『出雲尼子史料集』（島根県広瀬町、2003年）に収載できなかった史料を約200点確認し翻刻した。それらの史料も活用しながら、日本海や出雲国の内水面を基盤に活動した諸勢力、周防国大内氏、安芸国毛利氏、畿内諸勢力と、尼子氏との関係性についての検討を進展させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

尼子氏に関する研究は、『出雲尼子史料集』の公刊により基盤整備が進んだが、なお多くの未活字史料が残されており、それらの収集と共有を格段に進めることができたことは、研究の進展に資するところがきわめて大きいと考えている。関係史料の収集と公表は今後も継続的に取り組んでいく必要があるが、それらを併せ用いた尼子氏研究の進展は、単に一権力の実態解明にとどまるものではなく、西日本周辺海域を含む列島諸地域の動向のなかに尼子氏を位置づけなおすことにより、分裂から統合へ向かう16世紀日本列島における時代の転換の意味を明らかにすることにつながるものと予想される。

研究成果の概要（英文）：In this study, I aimed to clarify the role played by the Amago clan, a Sengoku daimyo, in 16th-century Japan. I conducted my research in the following way. First of all, I collected many more related historical materials and printed those that could not be included in the "Izumo Amago Historical materials Collection" published in 2003. Second, by utilizing these historical materials, I have advanced my research on the relationship between the Amago clan and the powers in the Japanese archipelago.

研究分野：日本中世史

キーワード：尼子氏 大内氏 毛利氏 石見銀山

1. 研究開始当初の背景

戦国時代に現れた大規模な地域権力に関する研究は、在地領主制が高度に発展した自立的な地域国家ととらえる見方から、室町幕府 守護体制の変質した体制とみる見方にいたるまで、多様な理解が対立・併存している。それらの議論は、実態として多面的な性格を併せ持っていた各権力体の一側面を確かにとらえている場合が多く、いずれも意義深いものである。

しかし、それらの議論が共通して抱えてきた課題は、周辺海域を含むより広域的で外的な要因や、時期による変化をとらえる観点を、どちらかと言えば副次的な問題として軽視してきた点にあるのではないかと考えられる。

本研究が検討対象とする出雲尼子氏については、戦後歴史学が重視した戦国大名権力の特質をめぐる貫高制論・検地論・戦国法形成論・兵農分離論などの議論を展開できるような事実をほとんど確認できず、守護京極氏の分国支配を継承した旧態然とした権力であったとみるのが一般的であった。

しかし 1500～1540 年の尼子経久は、明らかにそれまでとは異なる独自の政策や大胆な戦争を展開しており、正式な守護職を得ていないだけでなく、希求した形跡もみられない。しかも、少なくとも西日本の戦国動乱が分裂から統合へ向かう時代の転換において、尼子氏の果たした役割を軽視することはできないと考えられる。後世の視点から権力の先進性・後進性を論じること、あるいは既存体制との関係性に観点を絞って論じること、課題があったことをうかがわせている。戦国時代は、個別地域権力の視点からだけではなく、もっと広域的で全体的な視点から追究していくことが、これまで以上に必要とされる研究段階に入っていると考えられる。

2. 研究の目的

第一の目的は、15 世紀以降の列島周辺の政治的・経済的動向、とりわけ大内氏・大友氏・山名氏・赤松氏・細川氏など西国における既存の有力な政治勢力の動向や、中世西日本海海域における交流・物流の展開をふまえて、分裂から統合へ向かう 16 世紀日本列島における大きな時代の転換や、西日本周辺海域を含む列島諸地域の動向のなかに、尼子氏を位置づけなおし、尼子氏の急激な盛衰の背景や要因、ならびに尼子氏が時代の転換に果たした役割や意味を、明らかにすることである。

第二の目的は、あらためて尼子氏関係史料を博搜し、未確認であった史料の調査を行い、史料集の補遺(もしくは増補版の尼子氏関係史料集)を公開し、尼子氏に関する基礎的な研究基盤の整備を一層進展させることである。

3. 研究の方法

本研究においては、尼子氏を、西日本全体の政治的・経済的動向に位置づけて理解するために、尼子氏の動向と周辺海域や周辺諸勢力との関係性をできるだけ具体的に追究した。

尼子氏の影響力が最も拡大したのは、1540 年前後の限られた時期の現象と考えられるが、日本列島の西側における戦国動乱の展開に少なからざる役割を果たした可能性が想定される。

そのため、A 大内氏・大内氏分国諸勢力と尼子氏の関係、B 安芸武田氏・毛利氏・備芸石諸勢力と尼子氏の関係、C 山名氏一族・山名氏一族分国諸勢力と尼子氏の関係、D 若狭武田氏・北陸地域諸勢力と尼子氏の関係、E 大友氏・九州諸勢力と尼子氏の関係、F 赤松氏・赤松氏分国諸勢力と尼子氏の関係、G 細川氏・三好氏・畿内諸勢力と尼子氏の関係、H 河野氏・四国瀬戸内諸勢力と尼子氏の関係、I 西日本海諸勢力と尼子氏の関係、J 出雲国内諸勢力と尼子氏の関係、のそれぞれについて史料収集・調査・分析を進め、尼子氏との関係性について解明することをめざした。その過程で、新たな尼子氏関係史料のとりまとめを行った。

4. 研究成果

研究目的の第一に関して、以下のような成果を公表した。

16 世紀前半において、石見銀山の発見が、中国大陸沿岸における新たな動向に西日本海海域が巻き込まれていく契機となっただけでなく、東アジア海域の変化を生み出していったことが、尼子氏の盛衰とどのように関連していたのかを明らかにするため、大内氏による石見銀山の開発・支配が山陰地域に与えた影響を明らかにした。その成果は、令和 3 年 11 月の第 2 回石見銀山研究会において「大内氏からみた石見銀山」について招待講演の形で研究報告を行い、その内容を『石見銀山研究』創刊号に掲載するとともに、『石見銀山研究』第 2 号掲載の論文「石見銀山と大内氏」として公表し、大國晴雄他編『石見銀山ことはじめ 銀』(大田市教育委員会、2022 年)においてその要点を概説した。

次に、この時期の中国地方を検討するために、尼子氏と大内氏が相拮抗する二大勢力対立の構図が、なぜどのようにして形成され、それがいかなる性格を有していたのかを明らかにする必要があったので、両者が直接対決した大内氏による出雲国遠征についての再検討を進め、大内氏による出雲国遠征が西日本の広い範囲に影響が及ぶ、時代を画する戦争であったことを具体的に

明らかにするとともに、尼子氏盛衰の要因を追究した。その内容は、島根県古代文化センターの公開講演「西日本の戦国争乱」において一部を報告した。

次に、日本海や出雲国の内水面を基盤に活動した諸勢力、安芸国毛利氏、畿内諸勢力と、尼子氏との関係について検討した。その成果は、島根県邑南町の招待講演「本城常光と毛利氏・出羽氏」、広島県安芸高田市歴史民俗資料館の招待講演「永正・大永年間の尼子氏と毛利氏」、いづも財団の招待講演「中世出雲の水運の発達と港湾都市」において、発表した。さらに、尼子氏が山陰西部や山陽側へ侵攻する際の主要経路に位置していた石見国東部と安芸国北部に着目し、なかでも出羽氏・本城氏や吉川氏の存在(とりわけ尼子経久と吉川氏息女の婚姻)が尼子氏の拡大と密接に関わっていたことを明らかにした。その成果は、令和4年10月島根県邑南町における招待講演「出羽氏と高橋氏・毛利氏」、令和5年3月広島県北広島町における招待講演「吉川氏と尼子氏」により発表した。

研究目的の第二については、尼子氏関係史料を博搜し、『出雲尼子史料集』未掲載の史料の収集と入力を進め、『出雲尼子史料集』未掲載の史料を200点近く確認することができた。以上のような史料収集・整理をふまえ、未定稿として『出雲尼子史料集 補遺編』を作成し、さらなる史料情報収集の基盤整備を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 長谷川博史	4. 巻 2
2. 論文標題 石見銀山と大内氏	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 石見銀山研究	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川博史	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 大内氏からみた石見銀山	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石見銀山研究	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 10件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 出羽氏と高橋氏・毛利氏
3. 学会等名 鳥根県邑南町田所公民館講演会「出羽氏と二ツ山城を語る」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 吉川氏と尼子氏
3. 学会等名 北広島町まちづくりセンター講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 西日本の戦国争乱
3. 学会等名 島根県古代文化センター（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 山陰地域の戦国時代と東アジア世界
3. 学会等名 鳥取県立公文書館（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 大内氏からみた石見銀山
3. 学会等名 石見銀山研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 中世水運と松江 中世白潟の歴史と特徴
3. 学会等名 松江市白潟まち歩き楽会・白潟公民館 講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 本城常光と毛利氏・出羽氏 高橋氏一族本城氏の興亡
3. 学会等名 島根県邑南町 田所公民館・田所地区別戦略どがあずしょう会 地域の歴史を学ぶ講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 永正・大永年間の尼子氏と毛利氏
3. 学会等名 安芸高田市歴史民俗博物館 毛利元就入城500年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 中世出雲の水運の発達と港湾都市
3. 学会等名 いづも財団公開講座第 期 中世出雲の歴史と地域文化 第4回（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川博史
2. 発表標題 尼子氏の戦争と山陰地域
3. 学会等名 島根県古代文化センターテーマ研究「中世山陰の戦争と地域社会」第6回検討会（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大國晴雄 鳥越俊行 岡美穂子 佐々木愛 大橋康二 長谷川博史 本多博之 高木久史 他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大田市教育委員会	5. 総ページ数 200
3. 書名 石見銀山ことはじめ 銀	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------